



池田の町をジャズの音色が包み込む

池田のうだつの町並みで気軽に音楽を楽しんでもらおうと5月20日、たばこ資料館、やぎう座、旧政海旅館、まちかど資料館の4会場で池田Jazz横丁が行われました。各会場では、建物を生かしたライトアップなど幻想的な演出で、アーティストたちによる演奏が披露されました。美馬市から来た原康菜さんは、「普段ジャズを聞いたことはなかったが、生で演奏を聞くとすごくよかった」と語り、演奏者の美しい音色に聞き入っていました。また、地酒や地元のお菓子が振る舞われ、多くの来場者でにぎわいました。

「世界農業遺産」国内候補地に選定

日本の原風景が残る東祖谷などで地域特有の景観を活用しながら農業に取り組む「にし阿波の傾斜地農耕システム」が、国連食糧農業機関（FAO）が認定する「世界農業遺産」の国内候補地および日本農業遺産に認定されました。4月19日には、農林水産省で認定授与式が行われ、にし阿波の2市2町などで組織する徳島剣山世界農業遺産推進協議会（会長 兼西つるぎ町長）に認定書が手渡されました。今後、にし阿波の伝統的農業文化を次世代に継承するとともに、世界農業遺産認定に向け、地域一丸となって取り組みを進めていきます。



女子ユースチーム「TRAKT（トラクト）」が日本代表に決定

大歩危リバーフェスティバルが5月20日、21日の2日間、大歩危周辺の吉野川で行われました。この大会は、10月に三好市で開かれる世界選手権の女子ユース（15歳以上19歳以下）の選考会も兼ねており、規定のゲートをくぐる「スラローム」や約4キロを下る「ダウンリバー」など4種目が行われ、三好市を拠点に活動している中高生チーム「TRAKT（トラクト）」が日本代表に決定しました。認定式で、認定証を受け取ったキャプテンの土井歩さんは、「メンバーが足りず苦しい時期もあったが、代表になることができて本当にうれしい。10月の世界選手権に向けて頑張ります」と健闘を誓いました。



おもしろいこと、珍しいもの、耳よりの情報など、どんなことでもいいのでお知らせください。
三好市役所 秘書人事課 ☎ 72-7646

笑顔あふれる博愛まつり



「笑顔でつながる地域の輪～つながる心、広がる未来～」をテーマに5月28日、池田博愛会などが主催している第38回博愛まつりが箸蔵近隣公園で開催されました。開会宣言とともに約1000個の風船が放たれた後、箸蔵小学校校鼓隊による演奏や徳島県警音楽隊演奏などが披露されました。また、三好市出身の今井ゆうぞうさんによるショーが行われ、「大きな栗の木の下で」「どんな色がすき」などの歌が披露されると多くの来場者の歓声が会場に響き、終日にぎわいました。

家内安全などを祈願し火渡り



池田町西山の密厳寺で5月21日、不動の火祭りが行われ、県内外から約700人が訪れました。境内では、馬場獅子太鼓保存会による「あばれ獅子舞」が披露された後、柴灯護摩供養が行われ、燃え盛る炎に護摩木約1200本を次々と炎の中へ投げ入れました。火が鎮まった後には、焼けた護摩木の残り火の上を歩く「火渡り」が行われ、参拝客は無病息災や家内安全を祈り、裸足で渡って行きました。また、うどんの接待や福引き、餅投げなども行われ、多くの参拝者でにぎわいました。

池田球場でインディゴ快勝



四国アイランドリーグplusの公式試合が5月4日、池田球場で開催され、890人の観客が熱い声援を送りました。試合前には、地元少年野球チームの子どもたちが参加し、両監督へ花束を贈呈。その後始球式が行われました。愛媛マンダリンパイレーツと対戦した徳島インディゴソックスは、8対3で勝利。6回にはホームランも飛び出し観客は大きな拍手を送っていました。また、豪華景品の当たる抽選会もあり、大人も子どもも熱戦を楽しみました。

全国のサイクリストがにし阿波の大自然に挑戦

2市2町を舞台に5月14日、「第8回自転車王国とくしまツール・ド・にし阿波」が開催され、県内外から自転車愛好家ら1093人が参加し、にし阿波の大自然を駆け巡りました。コースは祖谷溪谷や大歩危小歩危の景観を存分に満喫できる55kmのコースをはじめ4コース。阿南市から参加した林貴子さんは「主人が鬼足コースにエントリーできたので、一緒に朝2時半に出発してきました。私も落合集落の景色や龍宮崖の吊り橋が楽しみです」と語り、にし阿波の景観を満喫しながら完走を目指し、心地よい汗を流しました。



声なき声を次世代に 市内各地で追悼式

平成29年度の戦没者追悼式が、市内各地区（池田地区5月19日、西祖谷地区23日、井川地区24日、東祖谷地区25日、三野地区26日）で行われ、遺族らが戦没者の冥福を祈るとともに平和への願いを込めて祭壇に白い菊の花を献花しました。三野公民館で行われた追悼式では、遺族ら83人が参列し、来賓の方々の献花や追悼の言葉の後、三野中3年の小笠原諒さんが「私たち若者が過去から目をそらさず、学び考え、戦争の悲惨さや命の尊さを次の世代に伝えていきます」と述べ、平和への誓いを新たにしました。